
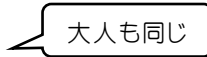



中国語を母語とする子どもに漢字指導する際の注意点と工夫

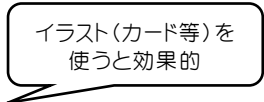
伊奈垣圭映(大阪市立野里小学校講師) 


はじめに 中国語を母語とする子どもに日本語を指導する時、「中国語がわかる」「既習の中国漢字」を強みに日本語の漢字を習得しやすくする工夫を模索し実践に生かした。

注意点

1. 中国語を母語とするからと言って、**漢字学習**が容易ではない。 
2. 中国語の漢字には、「**簡体字**」(中国・シンガポール)と「**繁体字**」(台湾・香港)がある。それぞれ**常用漢字**と同異がある。 
小学校で習う1,006字のうち、字形にちがいがある→簡体字は、**532**字 →繁体字は、**472**字 ある。
伊奈垣圭映(2015)「ちがいがわかる対照表日本の漢字中国の漢字」

工夫

1. **簡体字の成り立ちパターン**を子どもに知らせて、その逆から常用漢字を学習させた。(抄録参照)
2. **国字** 常用漢字の中には国字は多くない。(畑、込、峠、杵、匂など) 現代中国で使われていない漢字もある。(働、咲、俵、扱など) 
3. **意味のちがい** 中国語の漢字と日本語の漢字は、意味の異なるものもある。
*「走」→(日)は走る(中)あるく *「聞」→(日)きく(中)におう *「書」→(日)かく(中)本・教科書 * (日)「組」→(中)「班」 (日)「班」→(中)「小組」
4. **音読み** 音読みは、中国語の音に近いとは一概に言えない。それでも、中国語の音は訓読みより音読みに近いものが多いので、とにかく中国語で読ませた。
5. **熟語対策** 日本語の熟語には、同じ音なのに漢字が異なるものがある。それを中国語の音から区別することができる。子ども達がよく間違えるもの：
*「しゅうしゅう」→「収集」or「集収」(中)「shōu jí」 *「ほうほう」→「方法」or「法方」(fāng fā) *「そうぞう」→「想像」or「創造」
*「しゅうぶん」or「しゅうぶん」→「秋分」(qiū fēn)or「春分」(chūn fēn) *「ほうもん」→「訪問」or「訪問」(中)「wèn」「mén」など

まとめ *漢字学習は、日本と中国の漢字を両方同時にすると母語を失わずに進められた。
*小学中学年以上で渡日した子には日本漢字と中国漢字を同時に指導した。低学年の子には先ず日本の漢字から教えて、中学年以降に母語指導の過程で中国漢字を指導した。
*漢字は熟語で、熟語は文章で学習させると語尾変化も同時に覚えられた。
*母語の漢字を大切にすることで、日本の漢字に対する学習意欲を上げることができた。
子どもの自尊感情や母国文化を保持する効果もあった。
*ただ、常に戸惑い、混用してしまうので、長期的な指導がいる。⇒  できるように。

<事例>

- *小3 秋中国から編入の男子。
通級で週1回1時間日本語指導を受ける。3年ひらがな・カタカナを習得、日常会話の聞き取りできる。
- *小4 漢字が定着しない、中国の漢字も忘れて思い出せない。学校では、あまり話さない。
- *小5 友達と日本語で話せる。算数が得意。国語、社会の読解が難しい。作文は、ほとんどひらがなで書く。
- *小6 教科と小3年以上の漢字を中心に放課後指導始める。漢字は日中両方の字形と読みを学ばせ、熟語や物語を読ませた。日本語と中国語両方で作文指導。私が中国語で話しかけても日本語で返答する。クラスで私が中国語で漢字クイズや、中国の文化を紹介する国際理解の授業をしたのが一つのきっかけとなった。その後意欲的に漢字学習にも取り組むようになった。区の作文コンクールで優秀賞受賞。漢検 7級まで終了した。「中国語も勉強したい。」と意欲が高まってきた。

